

各主体における取組状況について

各主体における取組状況について
〈関係市における取組状況〉

- 栃木県 小山市
- 千葉県 いすみ市
- 千葉県 野田市
- 埼玉県 鴻巣市
- 千葉県 我孫子市

(以上、委員名簿順)

地域をつなぐコウノトリ

～トキにも選ばれる田園環境都市をめざして～



小山市長 浅野 正富

渡良瀬遊水地

田園環境都市 おやま

利根川中流域、小山市南西端に位置。
栃木県・茨城県・群馬県・埼玉県の4県4市2町にまたがる国内最大の遊水地
(総面積3,300ha)



環境学習フィールド3



ラムサール条約 3つの理念



コウノトリ野外繁殖



小さな自慢が
山ほどあります！！

2018年
渡良瀬遊水地第2調節池に設置した人工巣塔に
野田市で放鳥された「ひかる」が定着



2020年
「ひかる」が徳島県鳴門市生まれの「歌」とペアと
なり、2羽のヒナが誕生(野外繁殖では東日本初)
※「歌」は育雛後、骨折による衰弱等により死亡



2021年
「ひかる」が野田市で放鳥された「レイ」とペアと
なり、2年連続でヒナが誕生



2022年
「ひかる」「レイ」ペアにヒナが誕生
3年連続での野外繁殖が実現



J0128 「ひかる」とJ0181 「歌」



J0238 「レイ」とヒナ

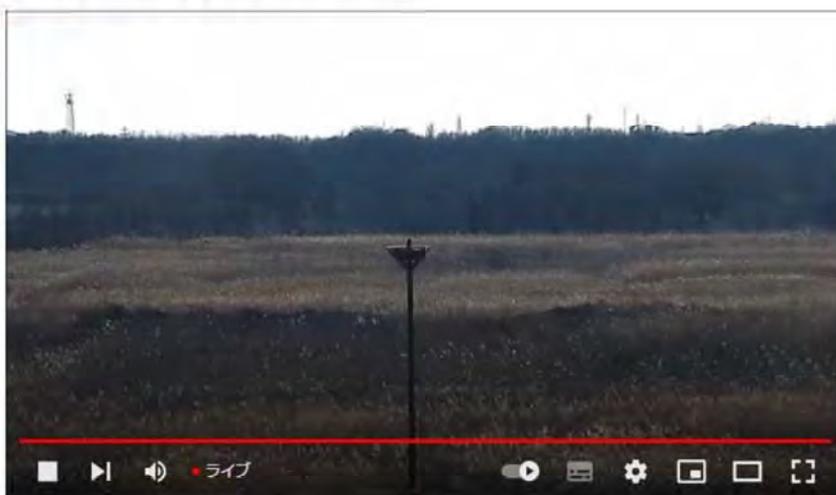
令和4年度の取り組み



生き物がたくさん生息できる水田を目指し、
水田ビオトープの取り組みを開始



繁殖ペアの行動記録を目的として、
ライブカメラの運用を開始



生井桜つつみ 見守りカメラ



わたらせコウノト...
チャンネル登録者数 829人

チャンネル登録

👍 37



共有

🔖 保存



渡良瀬遊水地周辺においてコウノトリの見守り活動を円滑に実施するために募集



コウノトリのことを知り、
コウノトリを好きになるためのコンテンツを用意

わたらせコウノトリファンクラブ

コウノトリってどんな鳥？ 何を食べるの？
どこにいけば見れるの？ どんなイベントがあるの？
コウノトリのことを知って、コウノトリを好きになるファンクラブができました。

わたらせコウノトリファンクラブウェブ

渡良瀬遊水地コウノトリ定着推進協議会

コウノトリ × 飲む

808BREWERY
おがの産物のアスパラ、ビール、ビールが
ふんばりやんをコンセプト、コウノトリの
イラストが、
●おがの町民館6F7F5
TEL 0262-23-6403

中西珈琲
こけしのコーヒーをお楽しみ下さい。
●おがの町民館6F7F5
TEL 0262-23-6403

わたらせ珈琲
渡良瀬遊水地コウノトリ定着推進協議会
が、おがの町民館6F7F5に
●おがの町民館6F7F5
TEL 0262-23-6403

わたらせ珈琲も
あつよ

飲む以外も
食べる

- 3ヶ月前タカハシパンカゴコウノトリ(限定) ¥1,210-
- 3ヶ月前タカハシパンカゴ(限定コウノトリ) ¥1,060-
- 3ヶ月前コースター(オランダ) ¥500-
- 3ヶ月前コースター(イロ) ¥500-
- マスコット(限定) ¥500-
- マスコット(限定) ¥650-

渡良瀬遊水地コウノトリ定着推進協議会

コウノトリ × 食べる

muty
2020年10月20日(日)は、コウノトリの
定着推進協議会が、おがの町民館6F7F5に
●おがの町民館6F7F5
TEL 0262-23-6403

Donut
わたらせ珈琲 × コウノトリ
●おがの町民館6F7F5
TEL 0262-23-6403

ドーナツ
わたらせ珈琲 × コウノトリ
●おがの町民館6F7F5
TEL 0262-23-6403

おやつ屋 wakekeko
おがの町民館6F7F5に、コウノトリの
定着推進協議会が、おがの町民館6F7F5に
●おがの町民館6F7F5
TEL 0262-23-6403

のうらく
わたらせ珈琲 × コウノトリ
●おがの町民館6F7F5
TEL 0262-23-6403

わたらせ珈琲も
あつよ

飲む以外も
食べる

渡良瀬遊水地コウノトリ定着推進協議会

コウノトリになって、巣を作ってみよう



これからの展望



コウノトリ・トキの舞う里地を目指して

コウノトリ・トキの舞う里地 Kumatori & Toki 関東自治体フォーラム

トキと共生する里地づくり推進地域 【コウノトリ・トキの舞う関東自治体フォーラム】

<p>【地域の概要】</p> 	<p>【取組内容及び取組方針】</p> <p>本地域においては、渡良瀬遊水地エリア、利根運河周辺のエリアなどいくつかのエリアから成り立っており、各エリアにおいて地域特有の地勢を活かしたトキ・コウノトリの野生復帰に向けた環境保全と地域振興の両立を図った取組を推進している。</p> <p>生態環境整備として、動植物の保全を考慮した自然再生や外濠確保等、周辺水田での環境に配慮した農業、水田漁漁や江の設置といった生物多様性を育む取組を進めている。</p> <p>また、社会環境整備として、地域住民向けアンソウム空間、子どもに親近感を抱かせるための環境半蔵、施設内ライトアップでの普及啓発活動、エリア間の情報共有、等多角的な活動を行っており、今後各自治体間の連携を促した活動の拡大・推進を図り方針である。</p>
<p>【地域名】 コウノトリ・トキの舞う 関東自治体フォーラム 【関係自治体】千葉県野田市・埼玉県東川島町・栃木県小山市ほか、計18自治体</p> <p>【関係機関】国土交通省関東地方整備局、環境省関東地方環境事務所ほか</p> <p>【自然環境等】 関東地方におけるエコロジカルネットワーク形成と魅力的な地域づくりを目指して2018年に発足した自治体間連携の第4自治体で構成された地域である。</p> <p>各地域には、利根川・荒川流域の水田地帯、低層田や河野林、堂地堂山が広がりを呈しており、トキの生息環境として良好な環境であると考えられる。</p> 	<p>【取組を通じて目指す地域の姿】</p> <p>トキと共生する里地づくりの取組は、これまで取り組んで来たフォーラム参加自治体の取組の集約を踏まえて、次のフォーラムの方向性を明確にするものである。そして、その結果は、多様な主体の参加・連携によるエコロジカル・コミュニティの形成、地域の豊かさと産業の活性化を促す魅力的な地域づくりを推進することである。</p>  



ラムサール条約第14回締約国会議(COP14)

サイドイベントにて、渡良瀬遊水地でのコウノトリ野生復帰の取り組み等について発表



コウノトリ・トキの飛び交う 関東を目指して





千葉県いすみ市

自然と共生する里づくりの取組

■まち一体となり、環境と経済の両立する地域の実現へ

いすみ市内の里山・里地・里海の自然環境の保全・再生を通じた地域活性化を推進し、持続可能な生物多様性に富んだ自然と共生する魅力的な地域づくりに資することを目的とする

いすみ生物多様性戦略 2015年策定

自然と共生する里づくり連絡協議会 2012年設立

自然環境保全・生物多様性連絡部会 2012年設置 事務局：いすみ市農林課

環境保全型農業(水稲)連絡部会 2012年設置 事務局：いすみ市農林課

地域経済振興連絡部会 2013年設置 事務局：いすみ市水産商工観光課

有機野菜連絡部会 2018年設置 事務局：いすみ市農林課

コウノトリ



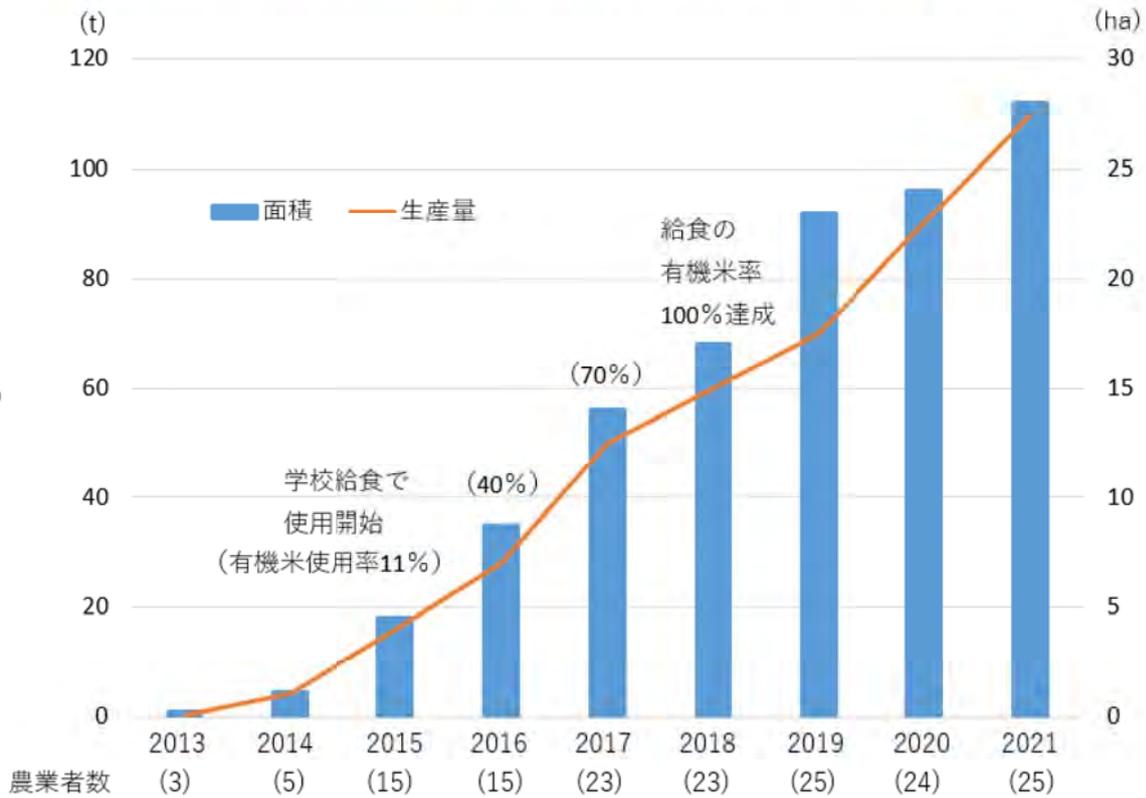
- 環境創造活動のシンボル
- 生物多様性保全の指標種



第5回生物の多様性を育む農業国際会議(ICEBA)2018



有機米生産の推移(いすみ市)



環境に配慮した農産物のブランド化

子どもたちの未来を支えるお米



Japan Airlines adopted the rice as in-flight meals of first class (2016)
日本航空ファーストクラス機内食に採用



■いすみ市の有機農産物の学校給食利用、成果

- ・有機農業者ゼロから4年で産地を形成
- ・学校給食における残食の減少
- ・イメージアップと認知度向上
- ・移住者の増加
- ・農産物のブランド化
- ・農業所得の向上
- ・新規就農希望者の増加
- その他

JALファーストクラス機内食(2016)に採用

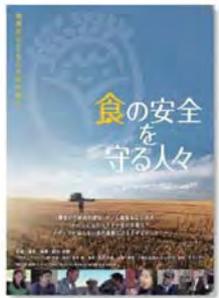
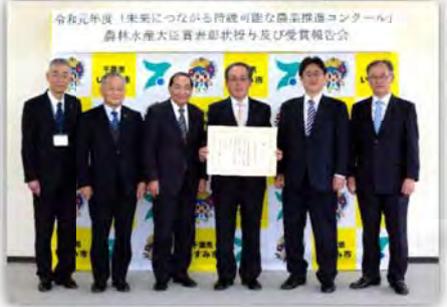
「JAL国内線ファーストクラスのおもてなし」
日本最高の機内サービスプロデュース機内食
千葉県
「初秋を彩る地元食料を創作日本料理で」



辻静雄食文化賞(2020)



未来につながる持続可能な農業推進コンクール
農林水産大臣賞(2020)



■有機米給食と連携した食・農・環境教育

「環境」と「農業」と「食」を一体的に扱う教育プログラムの開発に着手
一年間で30時限(15テーマ×2時限)を扱う



◆従来の教育
「環境教育」と「食育」と「農業体験」が
一体的に扱われていない
→農業の多面的価値を理解できない



◆いすみ市の食・農・環境教育
→健全な環境が、自身の健康と
健全な社会を保障している



いすみ市食育推進計画



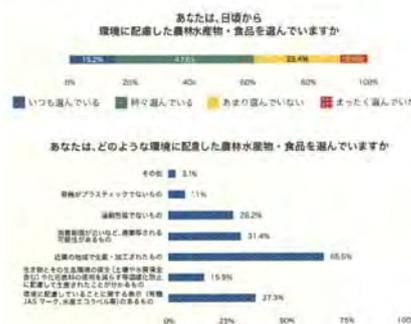
市に期待すること

「食育に関して市に期待する施策はありますか」という質問に対しては、「学校（保育所）給食で地元農産物の利用を促進する」56.4%、「学校（保育所）給食で有機農産物の利用を促進する」43.7%、「学校や保育所（園）での農作物栽培や料理の機会を増やす」38.4%が上位にあがっています。



環境への配慮

環境への配慮では、62.2%の人が「いつも選んでいる・時々選んでいる」と答え、環境に配慮して農林水産物・食品を選ぶ人は、地域産物（近隣の地域で生産・加工されたもの）を高い割合（65.5%）で実践していることがわかりました。



子どもたちが成長し、やがて築く未来の食卓と、未来の食卓に支えられる農業・農村に大きく期待する



令和4年度 コウノトリをシンボルとしたまちづくり



野田市長 鈴木 有
第10回関東エコロジカル・ネットワーク推進協議会
令和5年2月17日（金）

※以降、会議当日に使用した資料から一部を削除しています。

令和4年度の放鳥について

【放鳥8年目】

- 遺伝的多様性を考慮し、秋田市大森山動物園から有精卵を譲受け、親鳥ペアに托卵
(托卵日：令和4年5月10日)



- 5月12日 ふ化
- 8月3日 「J0493：はく（オス）」と命名し放鳥（5日飛翔）



野田市コウノトリ
ボランティアの会

現在の放鳥個体の状況について



放鳥個体の様子



渡良瀬遊水地付近
(R1放鳥レイとヒナ2羽
: 小山市提供)



茨城県神栖市付近
(R3放鳥ミズキとJ259
: 令和5年1月1日
波崎愛鳥会阿部氏撮影)



千葉県野田市の付近
(H29放鳥ヤマトとR3放鳥リン)



関東で近親ペアの繁殖を確認



←R3年高圧鉄塔で
営巣したため
巣を撤去

R4年もIPPM-OWSの方針に基づき
地元の自治体をはじめ関係者と
対応したが営巣阻害できなかった

利根川中流の様子



守谷市域の稲戸井調節池に、複数のコウノトリが長期で飛来・滞在



R4年4月の様子



R4年12月の様子

ミライの帰郷

【飼育10年目】

- 11月16日 兵庫県立コウノトリの郷公園に預けていたメスのミライをペアで移送（オスは移送直後、死亡を確認）
- 近隣で高病原性鳥インフルエンザが確認され休館中

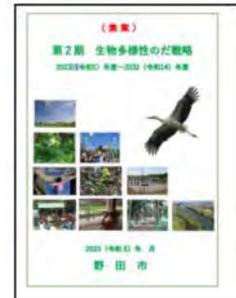


野田市こうのとりの里
オス1羽 メス3羽 計4羽（R5年1月末現在）

第2期生物多様性のだ戦略

平成27年3月
「生物多様性のだ戦略」策定

令和元年～
第2期戦略検討スタート
「生物多様性のだ戦略市民会議」の設置
(会長：東邦大学 長谷川先生)
自然環境調査、社会環境調査の実施
素案の作成⇒パブリックコメント実施



令和5年3月
「第2期生物多様性のだ戦略」
の策定

野田市の目指す将来像

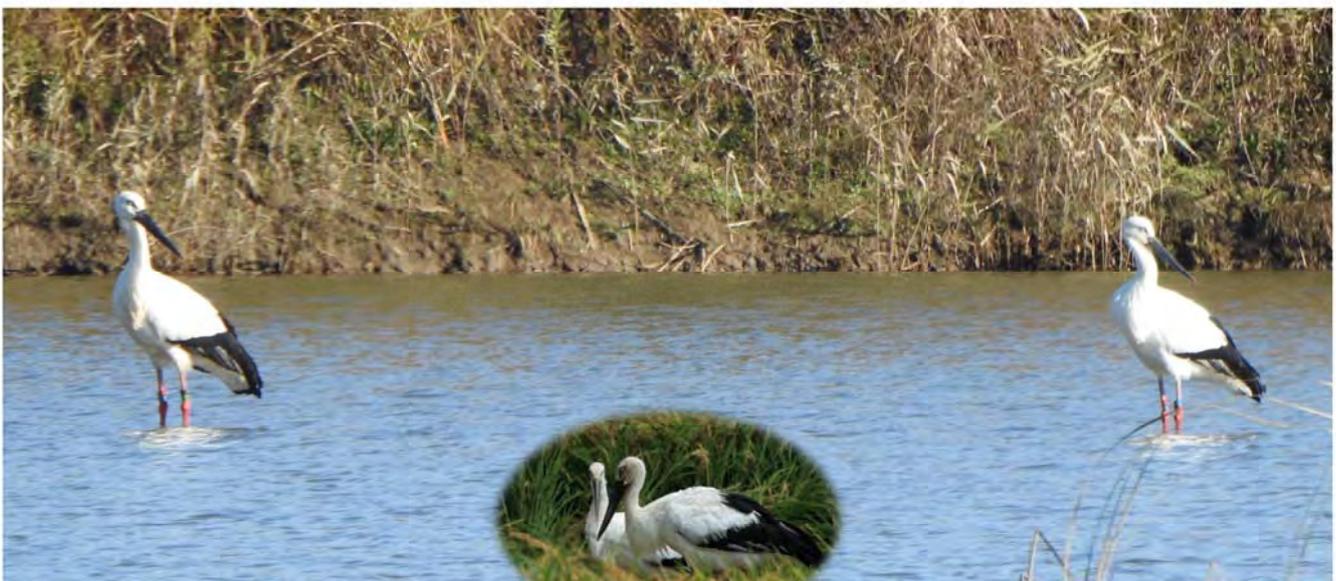
私たちの暮らしを支えるみどりと生きものがつながるまち
～コウノトリもすめる自然なのだ～



※第2期戦略(素案)に
関東エコネット推進
協議会の取組を記載

関東エコネット形成に向けて

現在、関東地域には15羽前後のコウノトリが飛来・滞在



水田や河川付近での様子

国や自治体を含めた多様な主体の連携・協働により

コウノトリでつながる魅力的な地域づくりの実現へ



埼玉県鴻巣市



コウノトリ野生復帰センター 天空の里



鴻巣市・コウノトリの里づくり事業



コウノトリの舞う
魅力的な
まちづくりに
取り組んでいます

人にも生きものにもやさしい
コウノトリの里 こうのす
の実現を目指して



背景

本市に息づくコウノトリ



豊かな自然環境



コウノトリ
トンボ、カエル、
ドジョウ、イナゴ
メダカ、水生昆虫
動物プランクトン
水生植物、水草
植物プランクトン

目指す姿

「人にも生きものにもやさしい
コウノトリの里 こうのす」

笑顔が輝く
担い手づくり



自然と共生する
環境づくり



にぎわいのある
元気なまちづくり



コウノトリ野生復帰センター 天空の里

来館者数・施設の目的

- 令和4年1月29日から一般公開を開始し、来館者数は約43,000人
- コウノトリの野生復帰に寄与することを目的の一つとし、環境学習の拠点として時季に合わせたイベント・展示のほか、社会科見学等の施設見学の受入れも実施。
- 高病原性鳥インフルエンザの発生防止のため、現在休館中。





天空の里を拠点とした取組



施設見学 (R3~)



ゲストティーチャー授業 (H28~)



生きもの調査体験会



コウノトリマルシェ開催



その他、取組報告

こうのとり伝説米の活用



埼玉県の特産栽培農産物の認証を受けた鴻巣市のブランド米

- 活用例
 - ・小学校・中学校の給食
 - ・市内公立保育所の給食
 - ・結婚祝い、出産祝い、3歳児健診のプレゼントとして

ブランドマークの活用



R3年度に市の事業や民間事業者にも、コウノトリに関連した商品のPR等に活用できるブランドマークを公募にて作成

- 活用例
 - ・市内デザインマンホール
 - ・コウノトリブランド商品として採択された商品のPR
 - ・子育て事業のパンフレット 等

鴻巣市生きもの等モニタリング調査業務委託

コウノトリの放鳥に向けて、水田をはじめとする農地・河川等の生きもの調査を実施

- 調査概要
 - ・市内全域を調査地点とし、水田のほか、河川については 荒川・元荒川・野通川で調査を実施
 - 調査方法
 - ・関東エコロジカルネットワーク推進協議会で作成されたマニュアルに準じて実施



千葉県我孫子市

『手賀沼のほとり 心輝くまち あびこ』

～ 人・鳥・文化のハーモニー ～

市長 星野順一郎



我孫子市観光PRキャラクター
手賀沼のうなきちさん



我孫子市の概況

■地勢

海拔約20m、南北延長は最長部で約5km、東西延長約14km、面積は43.15km²です。地理的には千葉県の北西部に位置し、東に印西市、南と西は手賀沼を隔て柏市があり、北は利根川をはさんで茨城県取手市・北相馬郡利根町と隣接し、手賀沼と利根川にはさまれた細長い馬の背状の土地となっています。

■歴史

昭和30年4月に我孫子町、布佐町、湖北村が合併して我孫子町となり、昭和45年7月に市制を施行しました。

豊かな水と緑に恵まれ、都心から約40km、常磐線で35分の近距離にあり、また平成27年3月から、常磐線が品川まで延伸したことにより、首都圏へ通勤する人々の利便性も増じてきています。

■人口と世帯(2022年4月1日現在)

人口：131,147人
世帯：60,722世帯



我孫子のシンボル“手賀沼”

手賀沼の面積は650ha。
手賀沼周辺には色々な施設があるほか、イベントが多く開催されるなど、市民の憩いの場となっています。



水の館



カヌー



手賀沼公園



生涯学習センター アビスタ

鳥の博物館

鳥類を専門に扱う自然史博物館です。
世界の鳥の標本268点をはじめ、トキの剥製や絶滅した世界一の巨鳥エビオルニスの卵や始祖鳥のレプリカ等を展示しています。
ミュージアムショップでは我孫子市の鳥「オオバン」のぬいぐるみをはじめ、様々なグッズを販売しています。



ハシビロコウ 2,500円
オオバン 2,000円
シマエナガ 800円
カワセミ 2,000円



ジャパンバードフェスティバル(JBF)



「人と鳥の共存をめざして」をテーマに、鳥や自然を愛する人たちが一堂に会する、日本最大級の鳥の祭典です。
2022は3年ぶりの会場開催で11月5日(土)、6日(日)に実施しました。



JBF2022の様子



会場入口



屋外会場



講演会



写真展

谷津ミュージアム

手賀沼沿いで最も谷津の地形と自然環境が残されている約36.7haをまるごと保全し、かつての農村環境の保全・回復を目指す「谷津ミュージアム事業」。
ヘイケボタルやニホンアカガエルなど2000種以上の多様な生物が生息しています。



市民との協働による環境保全

谷津ミュージアムでは市民の方と協働で谷津環境の保全活動や自然観察会などを行っています。



特定外来水生植物の駆除



ナガエツルノゲイトウ



オオバナミズキンバイ



令和3年度
合計で約3,260kg駆除
(クリーン手賀沼推進協議会)

手賀沼や周辺農地で急速に繁茂域を
拡げている特定外来植物の駆除が行
われています。

※手賀沼内については、管理者である千葉県による
大規模駆除がR2年度からスタートしています。



コウノトリの飛来記録



2004年12月～2005年3月にかけて、我孫子市北部の水田地帯に飛来。



2019年1月7日～1月20日にかけて、H28野田市放鳥の「きずな」が飛来。



2018年8月下旬～9月上旬にかけて、H30野田市放鳥の「きらら」が飛来。

各主体における取組状況について
＜関係河川事務所における取組状況＞

- 利根川上流河川事務所
- 江戸川河川事務所
- 荒川上流河川事務所

(以上、委員名簿順)

渡良瀬遊水地エリア エコロジカル・ネットワーク



渡良瀬遊水地エリアの将来像

利根川上流河川事務所

渡良瀬遊水地エリア エコロジカル・ネットワーク形成に向けた取組みの経緯



交流・学習



採餌場管理の協働



田んぼの生きもの調査体験



ホタル観賞イベント



学校と連携した植生管理イベント



10周年記念シンポジウム

日時 令和4年7月3日(日) 13:00~17:30(開場12:00)
会場 小山市立文化センター 大ホール(小山市中央1-15-1)1F

今年の7月3日は、渡良瀬遊水地ラムサール条約に登録されて
ちょうど10周年にあたります。
コウノトリをはじめとした貴重な生きものがたくさん暮らしている豊
かな自然環境を、皆で大切にしながら将来に引き継いでいくために、
何ができるのかを考えてみましょう。

第1部 活動報告& パネルディスカッション
13:00 開会
①活動報告
ラムサール条約登録10周年の歩み、そして未来へ
展望(10:00) 渡良瀬水地管理委員会 渡良瀬水地
②パネルディスカッション
ラムサール条約登録10周年を振り返る
③「10年を振り返る」をテーマにしたパネルディスカッション
15:30 閉会

第2部 田っぶり学ぶ! わたらせコウノトリスクール2022
担任(司会): 鈴木陽子先生
(谷田川コウノトリ見守りボランティア)ボランティアの
生徒! 地元の子どもたち
主催: 小山市
共催: 谷田川、越前川、野末川、越前川、加藤川
渡良瀬水地管理委員会・市民協働委員会

15:40 ホールムーム
18時開演 社会「コウノトリの暮らし」
①谷田川(谷田川コウノトリ見守りボランティア) 池田 真由美
②越前川(谷田川コウノトリ見守りボランティア) 池田 真由美
20時開演 渡良瀬 水地管理委員会の活動
21時開演 越前川 谷田川コウノトリ見守りボランティア 池田 真由美
48分間 総合学習「コウノトリの暮らし」
閉会

問い合わせ 小山市役所 総合政策部 自然共生課 参加費 無料
TEL 0285-22-9354

渡良瀬遊水地概成100周年 記念展示企画

100年前の渡良瀬遊水地と今 **入場無料**

明治時代、渡良瀬遊水地周辺は豊富な水が流れる豊かな地域でした。
この豊かな自然環境を保護するため、渡良瀬川・越前川・巴澤川の治水と周
辺の植樹が行われ、今から100年前の大正11年(1922年)に渡良瀬遊水地が概成
しました。
100年前の渡良瀬遊水地の様子が残されている「渡良瀬川改修工区」を中心に、
当時の様子を知ることができる多数の古図を一覧公開します。
展示する古図を通して、「谷田川はなぜハートのカタチ?」「三渡瀬はなぜこ
んなカタチ?」など、渡良瀬遊水地に関する謎が明らかになります。
解説は約100年前の河川事務所所長で保管されており公開していない古図を見ることが
できる貴重な機会ですので、是非お立ち寄りください。

場所: 渡良瀬遊水地ハートランド城 2F 展示室
期間: 令和4年10月26日(水) ~ 令和5年1月15日(日)

渡良瀬川改修工区 大正11年(1922年)作成

渡良瀬遊水地 ハートランド城
〒323-1104
栃木県栃木市郡岡町1218-1
● 開館時間 9:00~17:00
● 休館日 祭日(例)12/29~1/3
● 駐車場 無料(50台・大型バス5台)
● 料金 入館無料

問い合わせ先 約100年前の河川事務所 調査課
(TEL) 0480-52-3958
(HP) <http://www.ktr-net.jp/~family/keno009/18.html>

賢明な利用

来て! 見て! **10の市町でつながる**

WATARASE AREA ECOLOGICAL NETWORK

渡良瀬エコネット

渡良瀬遊水地エリア エコロジカル・ネットワーク

渡良瀬遊水地エリア内の自然・歴史・文化などを有する約100拠点を選定



コウノトリを観察できるライブカメラ(小山市)

渡良瀬遊水地 コウノトリ見守りボランティア **募集!**

内容 渡良瀬遊水地で暮らすコウノトリの暮らしを身近に感じ、その生息環境を
に「コウノトリ見守りボランティア」の活動を行うボランティアを募集
しています。

要件 ①コウノトリ観察の経験がある方
②活動が可能な時間帯の方

申込 ①小山市・小山町・野末川の各エリア(谷田川)にのみ
②事務局(oshizen@city.yamanashi.lg.jp)へ

募集期間 **6/1(水)~6/30(水)**

お問い合わせ先 渡良瀬遊水地コウノトリ定常管理協議会
小山市 自然共生課(事務局) ☎0285-22-9354



見守りボランティア



自然の拠点 (出流山ふれあいの森)



歴史・文化の拠点 (谷田川揚舟観光)



有機・無農薬ブランド米 (ラムサールふゆみずたんぼ米)



- 令和3年度、訪日外国人向けの渡良瀬遊水地プロモーションビデオを制作しました。
- 渡良瀬遊水地の自然の魅力を紹介しながら、施設としての機能や環境保全のとりくみについても紹介しています。(栃木市、小山市のフォトコンテストの写真を提供頂いています。)

コンセプト「渡良瀬遊水地は東京から1時間半。のんびりと豊かな自然に出会う旅」

東京にはない、雄大で豊かな自然、アクティビティ、土地の歴史といった独自の「体験」の要素を渡良瀬遊水地は持っています。

● ショート版 (30秒)

<https://youtu.be/rTmNgZwhzaw>



● 全体版 (英語表記・英語Na)

<https://youtu.be/LsZTNne9rac>



● 全体版 (日本語表記・英語Na)

<https://youtu.be/tLq9I5Oj-dg>



さいたま市HPより

渡良瀬遊水地エリアで3年連続コウノトリの繁殖が実現

渡良瀬遊水地では2020年に、東日本では約100年以上ぶりとなるコウノトリの繁殖が確認され、また、2021、2022年にも繁殖し、3年連続して渡良瀬遊水地がコウノトリの繁殖地になりました。

「コウノトリ “” 舞う魅力的な地域」の実現に一步近づきました！



渡良瀬遊水地第2調節池（小山市内）の人工巣塔でコウノトリの繁殖が実現（青木章彦氏提供）

エコロジカル・ネットワークを広げるために

渡良瀬遊水地では、エコロジカル・ネットワークを通じて、多くの生きものが生息できる環境をつくるとともに、自然環境を資源として上手に活用することで、地域の経済・社会の活性化も進め、更に取組みを広げていきます。

エコロジカル・ネットワークの取組みやイベントへの参加をお待ちしております。

自然観察会へ 行こう



川や田んぼなどで自然観察会を開催しています。教えてくれるスタッフがいるので、親子でも初めての人でも安心して参加できます。

地元のお米を たべよう



地元で作られているお米や、農薬や化学肥料を減らしたお米をたべて、農家を応援しましょう。

参加してみませんか?
渡良瀬エコネット

自然環境の 保全活動に 参加しよう



自然環境の保全・維持には、時にたくさんの人の力が必要です。ごみ拾いや外来種駆除、湿地の維持管理など、身近な活動に参加しませんか。

地域の 魅力を 伝えよう



地域の魅力(自然、歴史文化、食など)を伝えるボランティアガイド育成講座を開催しています。知らなかった意外な地域の魅力を、伝えてみませんか。

※(一財)渡良瀬遊水地アクリメーション振興財団のウェブサイトに移行します。

続きはWEBで!!

渡良瀬遊水地イベント情報

検索

令和4年度 利根運河周辺エリアにおける 取り組み報告



利根運河周辺エリアにおけるエコロジカル・ネットワーク形成に向けて



コウノトリの舞う地域づくり連絡協議会（江戸川・利根川・利根運河地域）-設立 H26.5-
【事務局】江戸川河川事務所・野田市

※以降、「コウノトリの舞う地域づくり連絡協議会（江戸川・利根川・利根運河地域）」は、「コウノトリ連絡協議会」または「連絡協議会」と略す。

掲載した内容は、次回連絡協議会（R5.2）にて報告・審議する予定でとりまとめ中の現時点案の情報です

1. 利根運河周辺エリアにおける行動計画（アクションプログラム）

『コウノトリ等の多様な生物と共生する地域づくりのための行動計画』 （第1期計画：2015～2020 / 第2期計画：2021～2030）

【目的】 ■水辺環境等の保全・再生・創出を推進し、広域連携により、自然のつながり「エコロジカル・ネットワーク」を形成する。
■取り組みを、地域振興・経済活性化につなげ、多様な生物と共生する魅力的な地域づくりの実現を目指す。

【内容】 目標達成に向けて、コウノトリ連絡協議会において、およそ10年間（2021～2030年）をめやすに、地域関係者と連携・協力して重点的に取り組む具体的な対策を、以下3つのテーマ別に整理（たね地づくりは第2期から新たに追加）した。

①多様な生物のすむ「定着地づくり」

- A. 地域連携による生きもの調査の促進
- B. 取り組み発展のための連携促進
- C. コウノトリ定着に向けた営巣・採餌環境整備の検討



②多様な生物を育む「人・地域づくり」

- D. エコ・グリーンツーリズムの推進支援
- E. コウノトリの舞う地域づくりの広報
- F. プロジェクトの継続・発展に向けたしかけの検討



③コウノトリ野生復帰の「たね地づくり」

- G. コウノトリを受け入れる社会環境づくりに関する検討



【これまでの取り組み（例）】

- ◎『水田の動物量調査の手引き』作成：水田動物の豊かさ、コウノトリ採餌ポテンシャルを把握する調査手法をとりまとめた。研究者監修（兵庫県立大、東邦大）のもと、地域関係者と協働（調査地提供、モニター参加等）で作成・公開した。⇒解説動画をYouTubeチャンネル「野田市コウノトリ」にて公開中。
- ◎調査体験会の開催：上記手引きを活用し、野田市・柏市・流山市の各所で調査体験会を開催した。
- ◎取り組み広報：PR資料（ポスターやのぼり旗、生きものモバイル等）の作成および配布・展示、それらを活用した関連行事（地域振興系のモニターツアー等）への出展などを行った。



2. 令和4年度の取り組み概要（主な活動結果）

(1) 田んぼの生きもの調査体験会の開催（定着地づくりに関する活動）

■田んぼの生きもの調査体験会

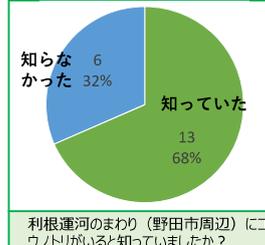
- ◎日時：令和4年7月23日（土）午前の部9:30～11:30／午後の部13:00～15:00
- ◎場所：野田市 こうのとりの里（江川市民農園） ※株式会社野田自然共生ファームご協力による
- ◎参加者：一般公募による地域の親子など 約40名
- ◎内容：水田・河川の生物調査の体験を行い、エリア内の農地・河川の生物の豊かさを実感した。『水田の動物量調査』の手法についても紹介した。
 - ・生物調査体験では、ドジョウ、ギンブナ、モツゴ、ゲンゴロウ類などを観察した。
 - ・エコネット学習では河川～水田の連続性などについて学ぶとともに、こうのとりの里で飼育スタッフの方から、コウノトリの生態等についてお話しいただいた。
 - ・「楽しかった」という感想とともに「勉強になった」という意見が得られた。



こうのとりの里学習(こうのとりの里スタッフさん)



水田調査体験(江川市民農園)



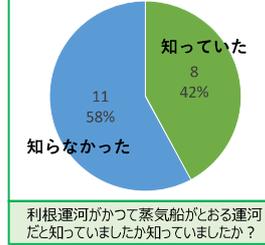
利根運河のまわり（野田市周辺）にコウノトリがいると知っていましたか？



河川調査体験(利根運河の魚類等)



環境学習(エコネット学習～種リスト作成)



利根運河が汽船が通る運河だと知っていましたか？

- 自然に触れ合える機会でした。とても楽しく学べました。子ども大喜びです！
- 初めて田んぼにいる生物にふれあえてとても興味深く楽しかったです。
- 魚や虫など自然に触れ合う機会が全くないので、子どもにも親にもとても良い体験になりました。コウノトリも実際に見る事が出来とても感動しました。
- 貴重な体験をさせて頂き、ありがとうございました。子どもたちが目をキラキラ輝かせている姿を見ることができて嬉しかったです。
- 田んぼに触れる機会が、なかなかないので、また参加したいです。
- まい日やりたいです。
- でかいお魚重かった。めっちゃ楽しかった。

ご意見・感想など

参加者のこえ(アンケート調査結果抜粋)

3

2. 令和4年度の取り組み概要（主な活動結果）

(2) 利根運河と周辺谷津のネットワーク形成のための樋管魚道の調査（定着地づくりに関する活動）

■城の越排水樋管魚道調査

- ◎日時：令和4年5月18～21日
- ◎結果：アユやオイカワの遡上、落差・流速の改善を確認した。

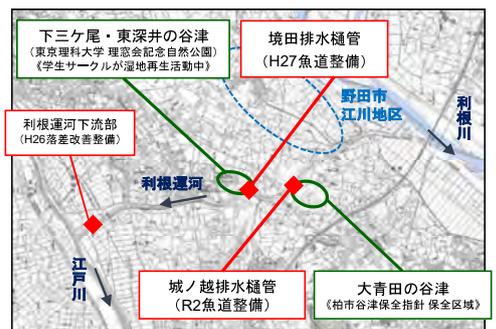
表. 遡上調査で採捕された魚類・甲殻類

種名	魚道	2022/5/18				2022/5/19				2022/5/20				2022/5/21				計
		日中	夜間	日中	夜間	日中	夜間	日中	夜間	日中	夜間	日中	夜間	日中	夜間			
オイカワ	右側(大型魚用)																1	
	左側(小型魚用)																0	
アユ	右側(大型魚用)		1														1	
	左側(小型魚用)																1	
アメリカザリガニ	右側(大型魚用)										1						1	
	左側(小型魚用)																2	
モクズガニ	右側(大型魚用)																0	
	左側(小型魚用)										1						1	

※日中：9:00～17:00、夜間：17:00～翌9:00



モニタリング調査



整備実施箇所

(3) 地域連携による外来種駆除・貴重種保全活動（定着地づくりに関する活動）

■アレチウリ駆除活動

- ◎日時：令和4年7月8日 10:30～14:30
- ◎場所：利根運河6.4k付近
- ◎参加者：市立柏高校ボランティア等 約100名。
- ◎結果：アレチウリ、オオバクサ等940kg程度を駆除。外来魚等の生物観察。

■貴重種保全モニタリング

- ◎日時：令和4年5月6日 9:00～16:30
- ◎場所：利根運河全川（16区画）
- ◎参加者：利根運河の生態系を守る会等 約10名。
- ◎結果：ノウルシ、フジバカマ等の生育状況を確認し、除草時期の調整等について意見交換。



R4.7.8

アレチウリ駆除活動
(主催 利根運河協議会)

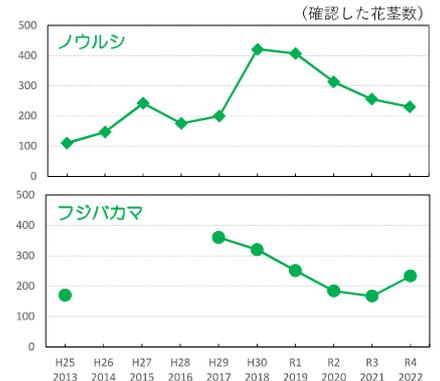


R4.6.18 (ノカラマツ)

保全植物を対象とした地域主催の観察会の例
(左:利根運河の生態系を守る会/右:流山おおたかの森駅前観光情報センター)



R4.9.27 (フジバカマ)



希少植物確認数の経年変化の例
(利根運河の生態系を守る会 植物チーム 提供データ)

2. 令和4年度の取り組み概要（主な活動結果）

(4) コウノトリの舞う地域づくりの広報（人・地域づくりに関する活動）

■展示・配布いただいた施設や行事の例

- ◎千葉県柏土木事務所（R4.3～） 柏土木事務所 1階
- ◎野田市コウノトリと共生する地域づくり推進協議会「カプセルトイマシーン：コウノトリがいるノダ」（R4.3～）このとりの里ほかで活用予定
- ◎利根運河交流館「運河駅ギャラリー」（R4.4）東武アーバンパークライン 運河駅
- ◎野田市このとりの里（R4.4～）このとりの里 観察棟・セミナールーム
- ◎柏市（R4.4～） 柏市役所 環境政策課窓口
- ◎守谷市（R4.5） 守谷市役所 1階 市政情報モニター
- ◎吉川市（R4.5） 吉川市役所 1階 デジタルサイネージ
- ◎流山市「市の鳥オオタカパネル展」（R4.7） 南流山センター
- ◎流山市東部公民館（R4.9～） 公民館 1階



コウノトリ飛来地マップ（半年に1回配信）



生きものイラストデータ提供



利根運河周辺エリア魅力動画（野鳥スライドショー）



利根運河交流館インスタグラム



野田市カプセルトイマシーン



流山市東部公民館



守谷市役所デジタルサイネージ



吉川市役所デジタルサイネージ



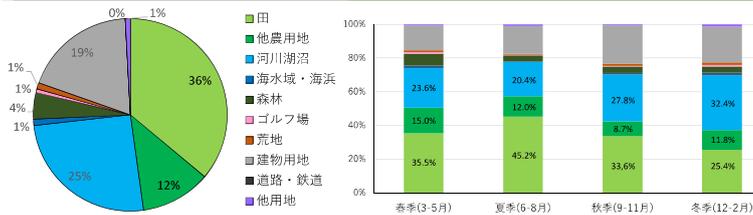
記念撮影用ほぼ原パネル

連絡協議会PRポスター

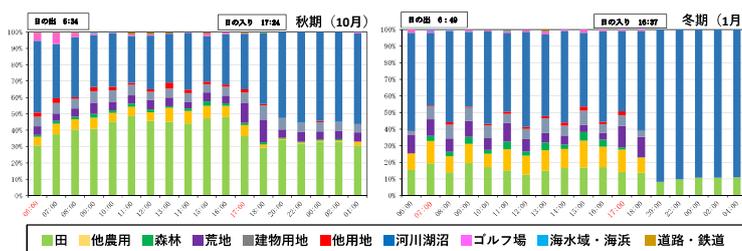
2. 令和4年度の取り組み概要（主な活動結果）

(5) コウノトリ定着促進のための検討（たね地づくりに関する活動）

- ◎コウノトリ利用地情報の整理（野田市コウノトリGPSデータより）
→ 冬期・夜間に河川利用が多い傾向があることを確認
- ◎コウノトリの観察・撮影される方へのお願い資料案の作成



■コウノトリ野田市放鳥個体の利用環境（2016.6.1～2021.12.31）



■コウノトリ野田市放鳥個体の利用環境の時間変化（2016.6.1～2022.6.30）

R3 整理結果の例

関東地方においても、冬季（水田の非湛水期）には、河川・湖沼域の利用が多くなる傾向がみられる。

R4 整理中の結果の一例

秋冬の利用環境を時間別にみると、河川・湖沼域の利用頻度は特に夜間において高い傾向がある。



コウノトリ飛来時のお願用資料

※内容および公開の是非・範囲などは、次回連絡協議会にて意見交換のうえ検討します

3. 令和5年度の取り組み計画（案）

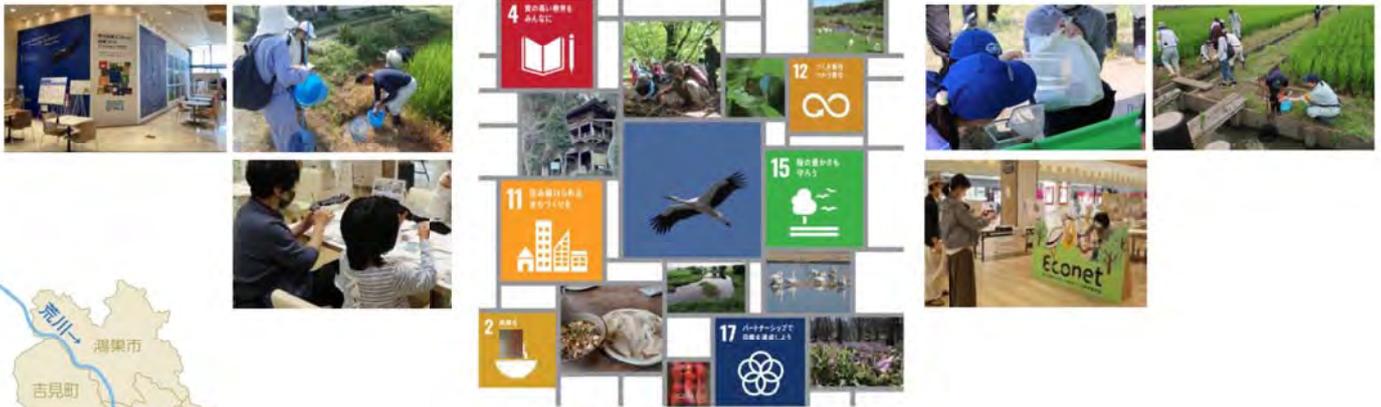
第2期推進計画達成に向け、引き続き地域関係者と連携しながら、次の項目等に取り組みます。

テーマ	項目	令和5年度活動予定（案）
多様な生物のすむ「定着地づくり」	A. 地域連携による生きもの調査の促進	<ul style="list-style-type: none"> ● 利根運河周辺エリア内において、水田の動物量調査の手引きを活用した「田んぼの生きもの調査体験会」を開催（7月～8月に1回）します。 ● コウノトリ連絡協議会の関係者を対象に、水田の動物量調査を実施される方への支援（手引きや資機材の提供・貸出し）を継続します。
	B. 取り組み発展のための連携促進	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域連携の取り組みの成果・課題を継承する方法について検討します。
	C. コウノトリ定着に向けた営巣・採餌環境整備の検討	<ul style="list-style-type: none"> ● 上記Bを踏まえ、コウノトリの営巣・採餌環境づくりのために連携実施が可能な取り組みについて検討します。
多様な生物を育む「人・地域づくり」	D. エコツーリズム・グリーンツーリズムの推進支援	<ul style="list-style-type: none"> ● 利根運河周辺エリアを対象に、エコツーリズム・グリーンツーリズムに関連する拠点（環境学習・農業体験施設等）や、コウノトリ等の多様な生物の生息場として期待できる拠点（池沼・巨木等）に関する情報を追加収集し、地域関係者間の共有（googleマイマップの更新・配信）を図ります。
	E. コウノトリの舞う地域づくりの広報	<ul style="list-style-type: none"> ● これまでに作成した広報資料（ポスター、パネル、のぼり旗、モビール、動画等）を活用しながら、取り組みPRを図ります。（連絡協議会の委員・オブザーバー各位へ展示・配布を依頼いたします。） ● 飛来地情報の定期的な配信を行います。（一般公表用資料「あたたのまちにも-コウノトリがやってきた」は年2回（8月・2月）のPDF配信を予定します。）
	F. プロジェクトの継続・発展に向けた仕掛けの検討	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域連携の取り組みの成果・課題を継承する方法について検討します。（B再掲）
コウノトリ野生復帰の「たね地づくり」	G. コウノトリを受け入れる社会環境づくりに関する検討	<ul style="list-style-type: none"> ● 作成したコウノトリの観察・撮影時のお願い資料を活用しながら、利根運河周辺エリアにおける「コウノトリの舞う地域」としての意識醸成を推進します。

※計画（案）については、次回連絡協議会（R5.2）にて協議して合意を図ります。

令和4年度 荒川流域エリアにおける 取り組み報告

～荒川流域の空にコウノトリを羽ばたかせよう～



私たちは持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています



荒川流域エコネット地域づくり推進協議会（事務局 荒川上流河川事務所）

1. 荒川流域エリアにおける行動計画（アクションプラン）

(1) 取り組みの経緯

平成29年度 推進協議会の設立

- 荒川流域エコネット地域づくり推進協議会（以下、推進協議会）の設立

令和2年度 WGの設立・アクションプランの策定

- 荒川流域エリア・ワーキングの設置（学識者、市民団体、自治体、河川管理者）
- 荒川流域エコネット地域づくり推進協議会においてアクションプランを承認

令和3年度～アクションプランの推進

- 推進協議会、ワーキングにおいて意見交換しながら具体的な取り組みを推進



(2) 荒川流域エコネット地域づくりアクションプラン

生物の生息環境保全に関する行動計画

プラン① 合同生きもの調査の実施



プラン② ゴミ・外来種問題への対応



プラン③ 環境学習・観察会の推進支援



ベースとなる 取り組み

協議会関係者による
これまでの活動継続
（河川や農地、里山林、
公園等における環境保全
に関する各種活動）

地域振興・経済活性化に関する行動計画

プラン④ 各種広報の展開



プラン⑤ エコツアーの推進支援



プラン⑥ 関係者間のネットワーク支援



ベースとなる 取り組み

協議会関係者による
これまでの活動継続
（自然の恵みを活かした
観光・商業等の地域振興
に関する各種活動）

2. 令和4年度の取り組み概要（主な活動結果）

(1) エコネット生きもの調査体験会の開催【プラン① 合同生きもの調査の実施】

◎田んぼと川のつながりやコウノトリについて学ぶ「エコネット生きもの調査体験会」を開催した（コロナ禍のため人数制限のうえ公募。エリア内の親子連れなど約35名が参加）。

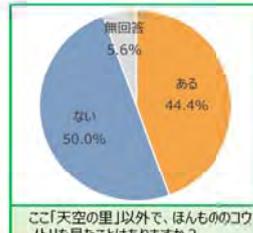
- **日時：** 令和4年7月26日（火） 午前の部9:30～11:30/午後の部13:00～15:00
- **場所：** 鴻巣市「天空の里」～吹上地域水田（鴻巣市、鴻巣こうのとりを育む会、地域の営農者さんご協力による）
- **目的：** コウノトリ等の多様な生物の生息場づくりの推進を目的として、河川（荒川）や水田に生息する水生生物、およびその生息場の連続性（生態系ネットワーク）の大切さについて、現地体験しながら学ぶ学習会を地域に提供すること。



こうのとりの学習(天空の里スタッフさん)



水田調査体験(鴻巣市吹上地域水田)



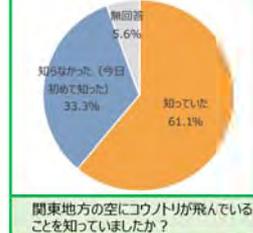
ここ「天空の里」以外で、ほんもののコウノトリを見たことはありますか？



河川調査体験(荒川大間地区の水生物)



環境学習(エコネット学習～種リスト作成)



関東地方の空にコウノトリが飛んでいることを知っていましたか？

■参加者のこえ(アンケート調査結果抜粋)



- 魚をとるのが楽しかった
 - 生物のことがいろいろ知れて楽しかった。
 - 寒さに生きものにさわってよかった。
 - 勉強になりました。また参加したいです。
 - 田んぼや溝を観察したことがなかったため、付き添いで大変勉強になりました
 - 本やインターネットだけの知識がなかったけど、実物を見たり、とったりできてよかったです。
 - 今日はコウノトリを見たくて来たけど、田んぼの生きものをつかまえていたら、とっても楽しくなりました。
 - 田んぼに入ったことがなかったため、虫や小さな魚が発見できて楽しかった。また開催してほしいです。
- ご意見・感想など

2. 令和4年度の取り組み概要（主な活動結果）

(2) ごみ・外来種対策の連携促進【プラン② ごみ・外来種問題への対応】

◎荒川流域の外来種や、プラスチックごみ問題の意識啓発用の資料・玩具を作成し、エリア内の外来種駆除・清掃活動等にて配布・展示（外来種啓発チラシは7行事で合計およそ760枚を配布）。



清掃活動「よしみGK作戦」(R4.6)



吉見町スクミンゴガイ駆除活動(R4.7)



プラごみ分け体験参加者のこえ
(R4.10 鴻巣市こうのと里マルシェ)

- 何がプラ製品かちょうど学校でならったばかりだったので正解できてうれしかった。
- マスクやフリス、消しゴムなどでもプラ製品があるなんて、勉強になりました。
- 明日からごみ分別の際は、もっと商品の裏を確認しなくてはと思った。
- 楽しい。クイズ10問ではもの足りない。



鴻巣市 こうのと里マルシェ(R4.10)

(3) こうのとりの学習の推進支援【プラン③ 環境学習・観察会の推進支援】

◎荒川流域生態系ネットワークやコウノトリ生態の紹介用ポスターを作成し、エリア内の環境施設等で展示（ポスターは4施設で掲示）。

⇒次年度のエリア内小学校での掲示に向けて学校教育課との意見交換を実施中。



吉見町図書交流館らっとよしみ



桶川市役所



鴻巣市 天空の里



2. 令和4年度の取り組み概要（主な活動結果）

(4) エコネット地域づくりの取り組み広報【プラン④ 各種広報の展開】

- ◎荒川流域エコネット地域づくりの解説用動画・パネルやコウノトリパーパークラフトなどの広報資料等を関連行事で配布・展示（施設・行事13件に出展）。
- ◎県市町のエコネット関連行事を取材したニュースレターを配信（創刊号1件）。



パーパークラフトワークショップ
(R4.4.29 周辺商業施設)



埼玉県環境科学国際センター
(R4.9.18 埼玉県加須市)



こうのとりマルシェ出展
(R4.10.23 鴻巣市 天空の里)



(5) 荒川流域エリア 住民アンケート【プラン①～⑥ 各種取り組み評価】

- ◎取り組みの計画・評価に活用するため、コウノトリ認知度や活動意欲等を把握するための意識アンケートを実施（上記出展時等で約260票を取得）。
- ※取り組みPRのため回答者・参加者にコウノトリ缶バッジを試験配布（約360個）。

本物のコウノトリを見たことがある？(n=184)*	ある(31%)	ない(69%)	無回答
関東地方の空をコウノトリが飛んでいることを知っていた？(n=212)	知っていた(33%)	知らなかった(67%)	無回答
当地区協議会を知っていますか？(n=260)	知っていた(13%)	知らなかった(85%)	無回答

■アンケート結果の一例

*コウノトリ保育館において、同施設以外で見たことがあるか聞いたもの



2. 令和4年度の取り組み概要（主な活動結果）

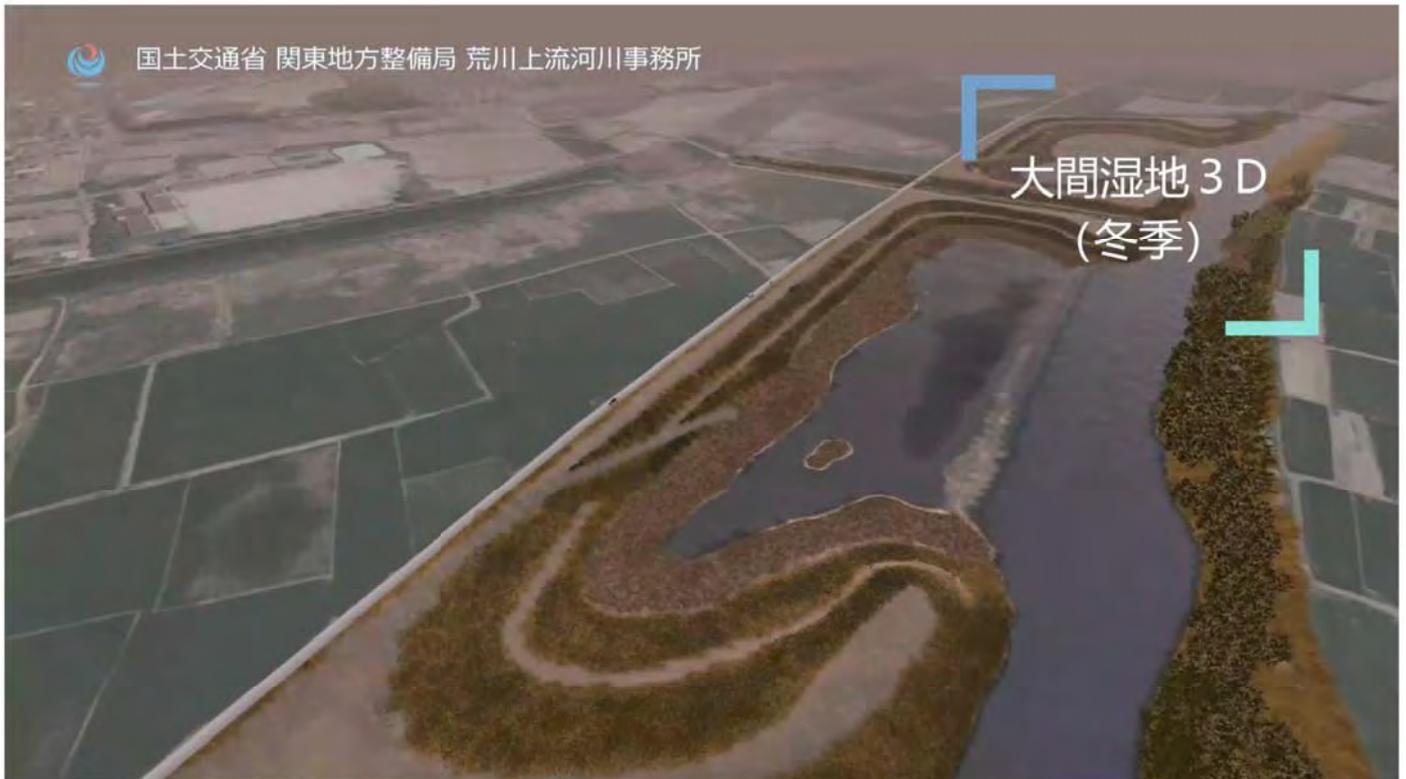
(6) 協議会関係者それぞれの取り組み（荒川上流河川事務所の事例紹介）

- ◎各県市町・市民団体において、生物保全に関する活動（魚類の環境DNA調査、外来種スキミングガイ駆除等）や、地域振興に関する活動（川沿いサイクリングの促進等）が実施されている。
- ◎荒川上流河川事務所では、荒川大間地区において、コウノトリの採餌場となることも期待し、多様な生物の生息・生育場となる湿地環境の再生整備を進めている。



ゲームエンジンを活用した
整備イメージ作成

2. 令和4年度の取り組み概要（主な活動結果）



7

3. 令和5年度の取り組み計画

- ◎第5回荒川流域エコネット地域づくり推進協議会（令和5年2月6日）を開催し、本年度結果の報告、来年度計画を確認するとともに、地域関係者との意見交換を図った。
- ◎来年度も、生きもの調査体験会やゴミ・外来種対策のほか、学校教育や観光振興と関連する新たな活動も含めて取り組みを継続する。



プラン	令和5年度予定（概要）
プラン① 合同生きもの調査の実施	<ul style="list-style-type: none"> ●水田や里山をフィールドとしたエコネット生きもの調査体験会を参加者公募形式で実施する。 ●生物データの収集・整理や活用方法に関する検討を継続する。
プラン② ゴミ・外来種問題への対応	<ul style="list-style-type: none"> ●各自治体・団体等の清掃活動や外来種駆除活動において、外来種問題の啓発用資料やプラスチックごみ問題の啓発用教材を配布・展示する。 ●ゴミ・外来種対策を相互に促進していくための意見交換を継続する。
プラン③ 環境学習・観察会の推進支援	<ul style="list-style-type: none"> ●各自治体・団体等で実施される環境学習・観察会において、コウノトリ等の学習用資料を配布・展示する。 ●各市町の小学校と連携し、エコネット学習の教育・普及を進める。【新規】
プラン④ 各種広報の展開	<ul style="list-style-type: none"> ●広報資料の配布・展示など、エコネットに関する情報発信（ニュースレターの発刊）や情報共有システムの活用検討を継続する。 ●取り組みの評価指標とするための住民アンケート調査を計画的に実施する。【新規】
プラン⑤ エコツアーの推進支援	<ul style="list-style-type: none"> ●観光マップ（Google マイマップ）の一般公開に向けた検討を継続する。 ●地域関係者による観光振興の取り組みの情報共有を図る。
プラン⑥ 関係者間のネットワーク支援	<ul style="list-style-type: none"> ●SNSを介した環境系団体・観光系団体の活動情報の収集を行う。 ●関係者間のネットワーク支援のためのさらなる方策を検討する。
ベースとなる取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ●協議会関係者それぞれによる関連事業の推進（および推進協議会での情報の収集・共有） ●取り組み効果分析に関する検討



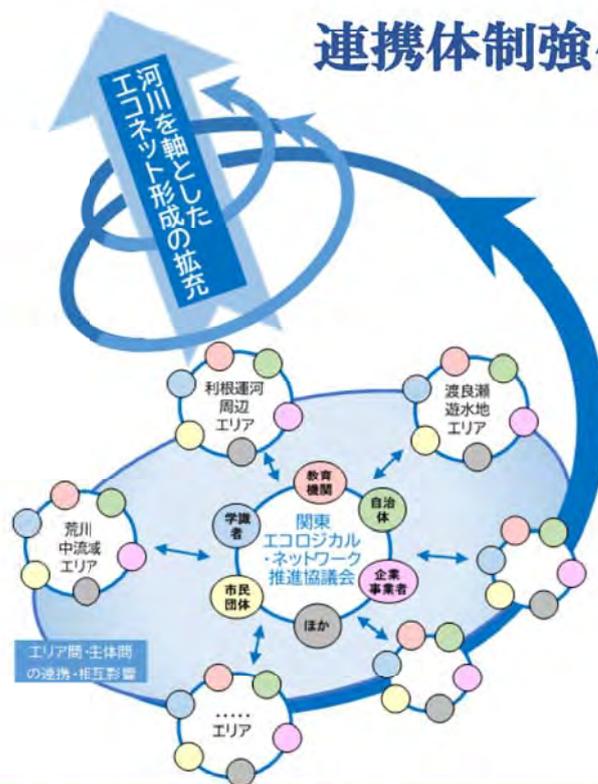
各主体における取組状況について
〈国の関連機関における取組〉

- 関東地方整備局（共通事項に関して）
- 関東農政局
- 関東地方環境事務所



関東エコロジカル・ネットワーク推進協議会の

連携体制強化について



国土交通省関東地方整備局河川部

関係組織との情報共有・連携

1. 関係自治体の意向把握(アンケートの実施)

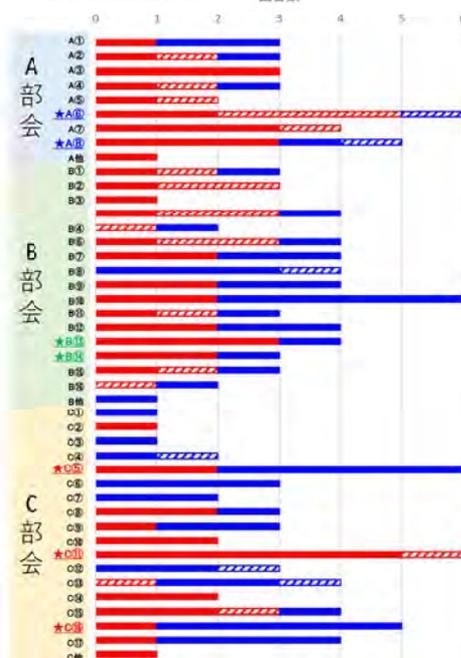
- 改定基本計画のプログラムの実施状況と課題の有無について6市と4県の14部署の計20者にアンケートを2022年9月～10月に実施
- 課題はあるものの全プログラムの中で重点プログラムの取組みが推進されている傾向
- エリアをまたぐ課題や関係機関に共通する課題の意見を収集
- 具体的な課題の内容については各部会や関係機関連絡会議(仮称)で取り扱い中、または今後取り扱い予定

■	課題あり実施中
□	課題あり検討中(一部「未定」回答含む)
■	課題なし実施中
□	課題なし検討中

2. 3省局間の連携強化

- 今年度は、農林水産省関東農政局、環境省関東地方環境事務所、国土交通省関東地方整備局合同で、4回の打合せを実施した。
- 3省局間による情報交換・意見交換については、実施継続中。

★重点プログラム



長谷川先生と3省局間の打合せ

3. 「関係機関連絡会議(仮称)」準備会の開催

- 「エリア横断・テーマ横断の課題を協議・調整する場」として「関係機関連絡会議(仮称)」を設置予定
- 今年度は上記会議の設置に向けた方針を検討するため「準備会」を開催(R5.1.27)
- 準備会では当面の具体的な課題である「利根川流域の繁殖地形成に向けた堤外・堤内の連携による生息環境整備」を議題として、関連メンバーで意見交換

◆参加メンバー：長谷川B部会長/青木渡良瀬遊水地エリア協議会長/野田市/小山市/
利根川上流河川事務所調査課/関東地方整備局河川部河川環境課



「準備会」に先立ち現場を視察 (R4.11.17)
(左：稲戸井調節池、右：渡良瀬遊水地)

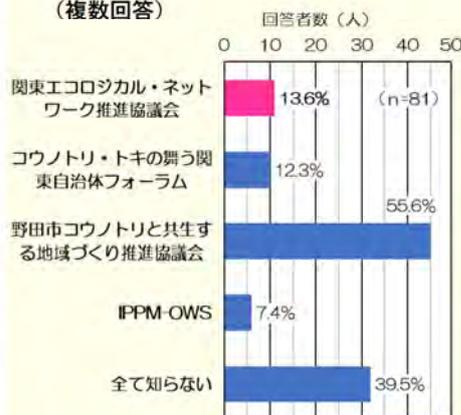
「準備会」開催 (R5.1.27)

4. コウノトリ関係4団体で広報活動 @「ジャパンバードフェスティバル2022」

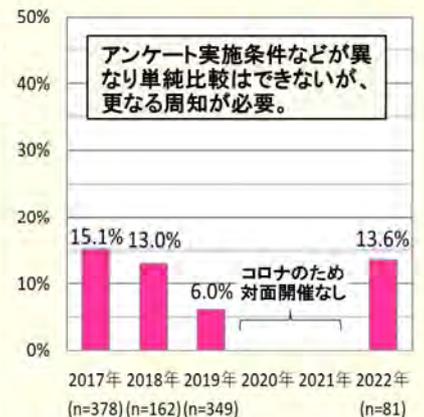
日時:2022年11月5日(土)・6日(日) 場所:千葉県我孫子市

ブース来場者を対象としたアンケート結果(抜粋)

■関東エコネット等の認知度 (複数回答)



■関東エコネット認知度の推移



■コウノトリ・トキをシンボルとした取組で特に関心のある取り組み (複数回答)



「関東エコロジカル・ネットワーク推進協議会」「コウノトリ・トキの舞う関東自治体フォーラム」合同出展ブースの様子



広報ツールとして配布



関東エコネットのロゴ入りエコバッグ (約300配布)



「おしえてコウノトリBOOK」(2019年度製作)(約300配布)
*2019年度に製作、現在在庫なし

野田市コウノトリと共生する地域づくり推進協議会

国営栃木南部土地改良事業 における取組について

令和5年2月17日

関東農政局農村振興部

栃木南部地区の概要

【事業目的】

本事業においては、地区内の排水系統の再編を行うとともに、排水機場の改修、統廃合や排水路の改修を行い、併せて関連事業において、支線排水路の改修を行うことにより、排水機能の強化による湛水被害の軽減や維持管理の費用と労力の軽減を図り、農業生産性の維持向上及び農業経営の安定に資するものである。

【関係市町】

栃木県栃木市、小山市、下都賀郡野木町

【受益面積】

3,619ha

(水田3,480ha、畑139ha)

【主要工事計画】

排水機場(新設) 1箇所

排水機場(改修) 1箇所

排水路(改修) 9.1km

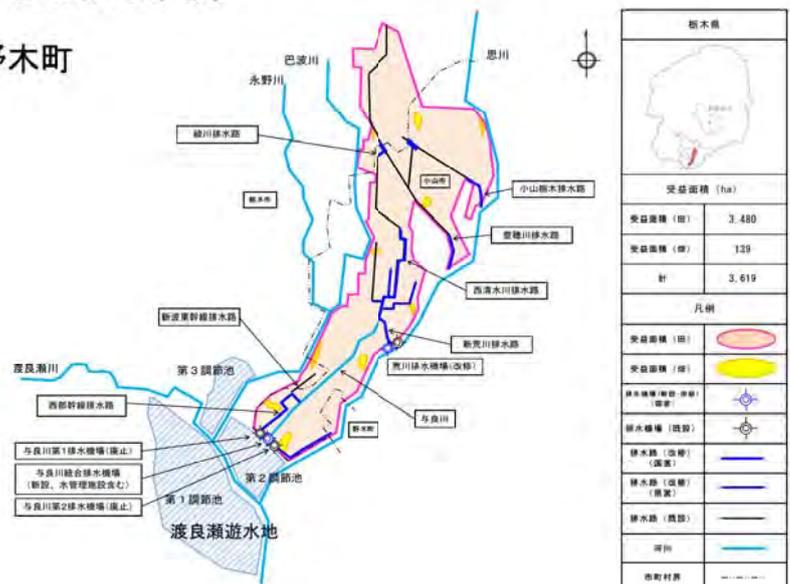
水管理施設(新設) 1式

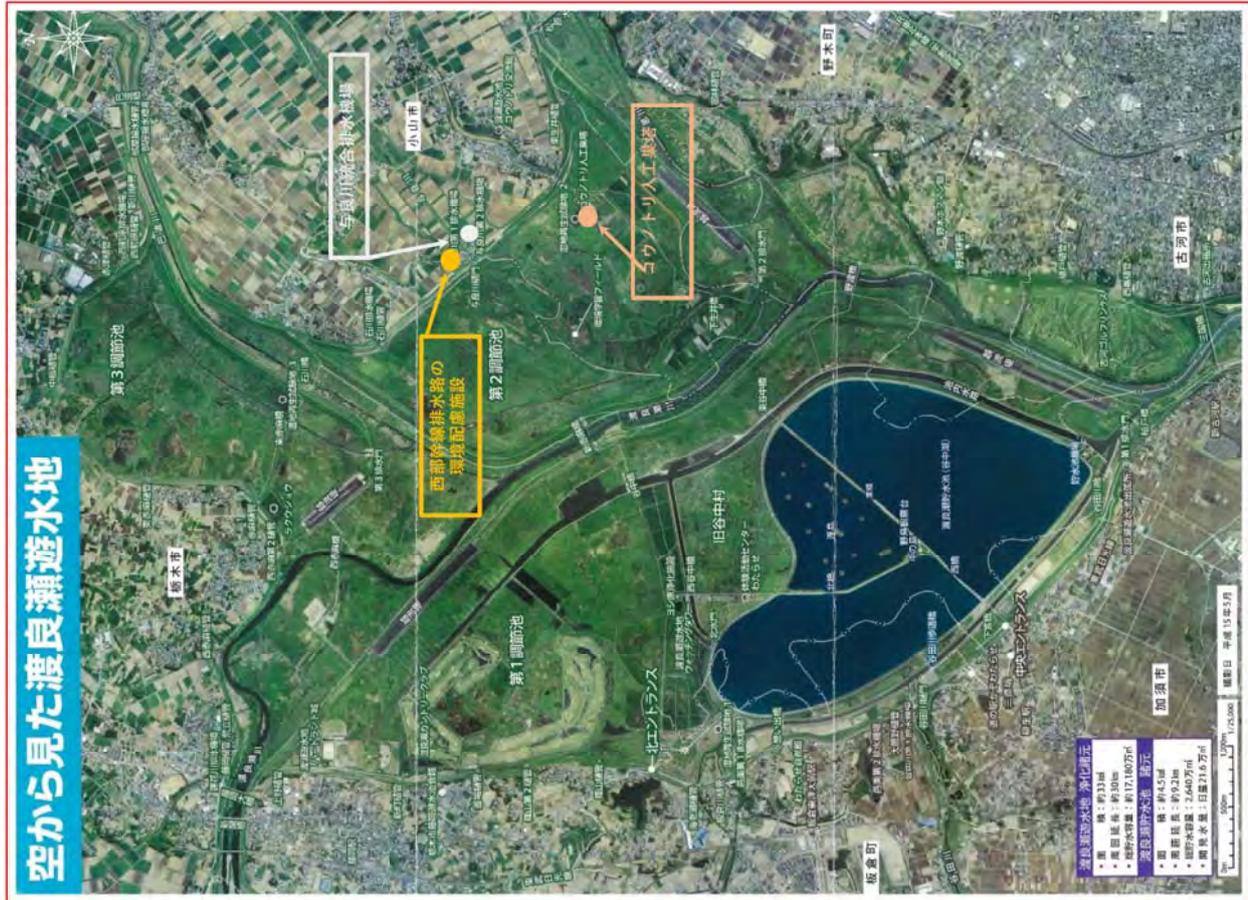
【予定工期】

平成28～令和7年度

【総事業費】

150億円

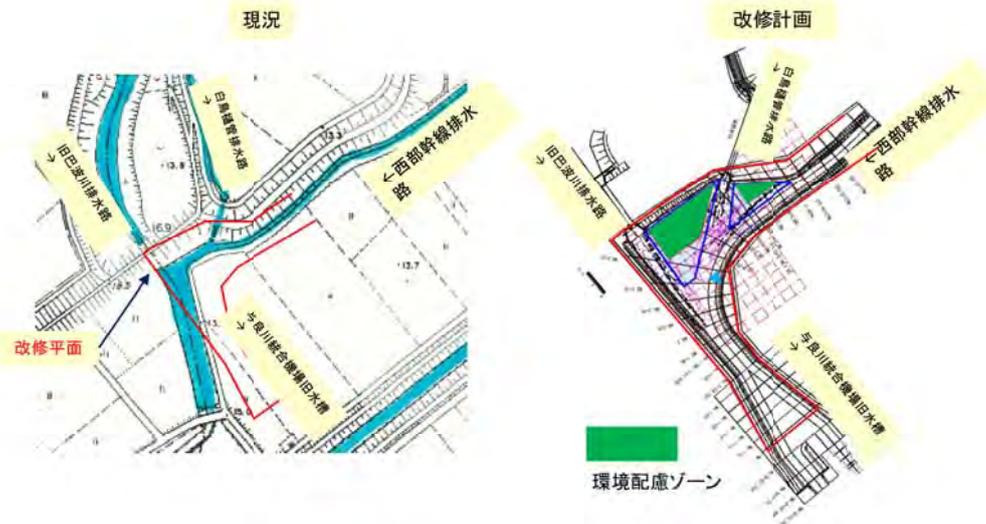




出典：関東地方整備局利根川上流事務所HPより

西部幹線排水路の環境配慮施設について①

- ・西部幹線排水路と2つの樋管の合流部において、排水路の止水域と余剰地を活用し、環境配慮ゾーンの配置を計画している。
- ・コウノトリの採餌や保全対象種への配慮の観点から、環境配慮ゾーンの構造等について検討を行った。



(参考) 第9回環境検討部会 (R2.7.14)での議論

- ・保全対象及びその生育・生息に配慮した対策内容について、検討を進めること。
- ・例えば、西部幹線排水路下流部周辺は、コウノトリの営巣に近い場所であることから、餌となる魚類の生育・生息環境に考慮する等。

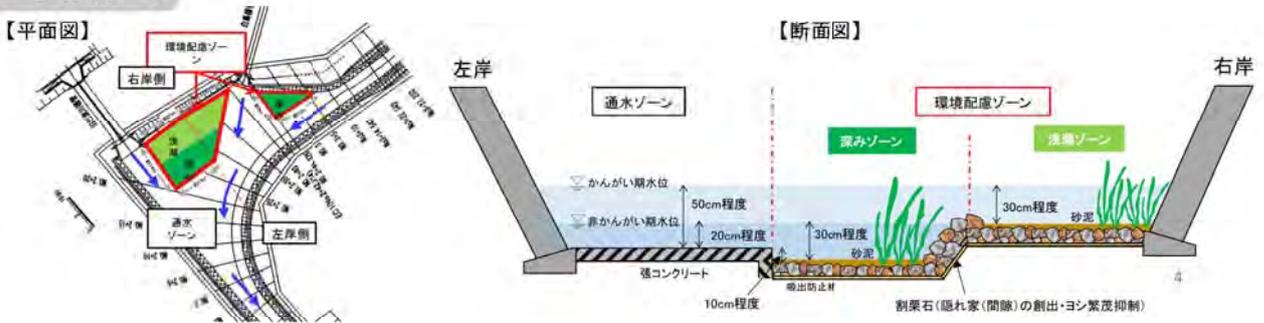
西部幹線排水路の環境配慮施設について②

- ・渡良瀬遊水地で繁殖が確認されているコウノトリの採餌場所となることを想定し、**採餌が可能となる浅い水深を確保**する。
- ・保全対象種である各魚類の生息を考慮し、**多様な水深を確保**するとともに、底版に窪みを設けて割栗石を敷設し、**底質が溜まり水草が生育できる構造**とする。
- ・あわせて、維持管理が極力容易となる構造となるように配慮する。

検討条件

- 水路の水深について**
 - ・現況の当該地点の水深は、かんがい期で50cm程度、非かんがい期で20cm程度となっている。改修後の水深は不明であるため、現況の水深を想定して検討する。
- コウノトリの採餌について**
 - ・コウノトリは、水田や河川の浅瀬で採餌を行うことから、**深みと浅瀬を設けることでかんがい期、非かんがい期通じて30cm以下の浅い水深となる範囲を確保**する。
- 保全対象種の生息環境について**
 - ・当該地点では、タモロコやギンブナが多く確認されている。これらの種が生息・繁殖可能となるよう、**緩流域で底質があり、水草が生育する環境を創出**する。
 - ・また、ドジョウやナマズも一定程度確認されているため、**隠れ場所となる底質や間隙がある環境**に配慮する。
- 維持管理について**
 - ・土砂上げ等の**維持管理が極力容易となるよう、シンプルな構造**となるよう配慮する。また、環境配慮ゾーンの底部には割栗石を敷設し、根を深く張るヨシの**繁殖抑制を図る**(ヨシの繁殖状況も工事後のモニタリング対象とする)。

環境配慮ゾーンのイメージ



与良川統合排水機場建設工事受注企業による

コウノトリのヒナへの足環装着作業への協力について

令和4年6月 栃木南都農農業水利事業所

当方国営事業の主要工事施設である与良川統合排水機場の建設地に隣接する渡良瀬遊水地第2調節池では、小山市が設置した人工巣塔において、2018年から飛来し始めたコウノトリ「ひかる」(雌6歳)が、2020年11月頃から「レイ」(雌3歳)とカップルとなり、2022年3月29日(孵化推定日)に3年連続でヒナが誕生しました。

同市ではラムサール条約湿地「渡良瀬遊水地」の「保全」と「賢明な利用」のため、国の特別天然記念物であるコウノトリをシンボルとした貴重な湿地環境の保全と地域の活性化に取組んでいます。この野外繁殖によるコウノトリのヒナの誕生は、1971年に国内野生コウノトリが絶滅し、2005年に兵庫県での野生復帰開始以降、東日本初3年連続となります。

【小山市 <https://www.city.oyama.tochigi.jp/site/wataraseyusuiichi/259383.html>】
43日齢の2022年5月11日(水)に、個体識別のための足環装着及び検体採取(※)が実施されました。同作業においては、昨年引き続き、同市から同機場建設工事の受注者である前田建設工業(株)に高所作業車の手配および操作について協力要請があり、無事に遂行されました。
同年5月28日(土)には、2羽のヒナの命名式が執り行われ、「セラ」(雌)、「ひなた」(雌)と命名されたとともに、同市から同社へ感謝状が贈呈されました。その後、6月5日には「ひなた」が、6月7日には「セラ」の巣立ちが確認されました。
当事業所としては、引き続きこのような豊かな自然環境との調和に配慮して事業を実施してまいります。

※作業の目的>

- コウノトリの個体番号が書かれた異なる組み合わせの色の足環を装着することにより、個体の識別が可能となり、個体の生態等を詳しく把握・調査することができま。
- 足環装着に併せて検体採取を行うことにより、ヒナの健康状態や性別が分かります。



高所作業車によるヒナの捕獲



足環装着作業



ヒナの命名式



与良川統合排水機場建設工事の受注者である前田建設工業(株)への感謝状贈呈



最近の自然環境行政のトピック

30by30目標とOECD関連の動き

関東地方環境事務所 野生生物課



生物多様性条約第15回締約国会議（COP15）第二部

2022年12月7日～19日@カナダ・モントリオール（議長国：中国）

- 2010年日本の名古屋で開催されたCOP10で採択された愛知目標（2020年までの世界目標）の後継となる「昆明・モントリオール生物多様性枠組」が採択



昆明・モンリオール生物多様性枠組の構造

2050年ビジョン
自然と共生する世界

2030年ミッション

必要な実施手段を提供しつつ、生物多様性を保全するとともに持続可能な形で利用すること、そして遺伝資源の利用から生じる利益の公正かつ衡平な配分を確保することにより、人々と地球のために自然を回復軌道に乗せるために生物多様性の損失を止め反転させるための緊急の行動をとる

昆明・モンリオール 2050年ゴール

ゴールA 保全

ゴールB 持続可能な
利用

ゴールC 遺伝資源への
アクセスと利益配分
(ABS)

ゴールD 実施手段

昆明・モンリオール2030年ターゲット (緊急に取るべき行動)

(1) 生物多様性への脅威の縮小 (3) 実施・主流化のツールと解決策

- 1: 空間計画
- 2: 自然再生
- 3: **30by30**
- 4: 種・遺伝子の保全
- 5: 生物採取
- 6: 外来種対策
- 7: 汚染
- 8: 気候変動

(2) 人々の需要が満たされる

- 9: 野生種の利用
- 10: 農林漁業
- 11: 自然の調整機能
- 12: 緑地親水空間

- 13: 遺伝資源への
アクセスと利益配分
(ABS)

- 14: 生物多様性の主流化
- 15: ビジネス
- 16: 持続可能な消費
- 17: バイオセーフティ
- 18: 有害補助金
- 19: 資金
- 20: 能力構築、技術移転
- 21: 知識へのアクセス
- 22: 先住民、女性及び若者
- 23: ジェンダー

実施支援メカニズム／責任と透明性／広報・教育・啓発・取り込み

3

30by30目標って？

2030年までに陸と海の30%
以上を保全する目標です。

Target 3

Ensure and enable that by 2030 at least 30 per cent of terrestrial, inland water, and of coastal and marine areas, especially areas of particular importance for biodiversity and ecosystem functions and services, are effectively conserved and managed through ecologically representative, well-connected and equitably governed systems of protected areas and other effective area-based conservation measures, recognizing indigenous and traditional territories, where applicable, and integrated into wider landscapes, seascapes and the ocean, while ensuring that any sustainable use, where appropriate in such areas, is fully consistent with conservation outcomes, recognizing and respecting the rights of indigenous peoples and local communities, including over their traditional territories.

ポイント

- ✓ **陸**（陸域と陸水域）と**海**（沿岸域と海域）の**30%以上**を
- ✓ **保護地域**と**OECM**で保全・管理し、
- ✓ より広域の陸上/海洋景観及び海洋に統合する

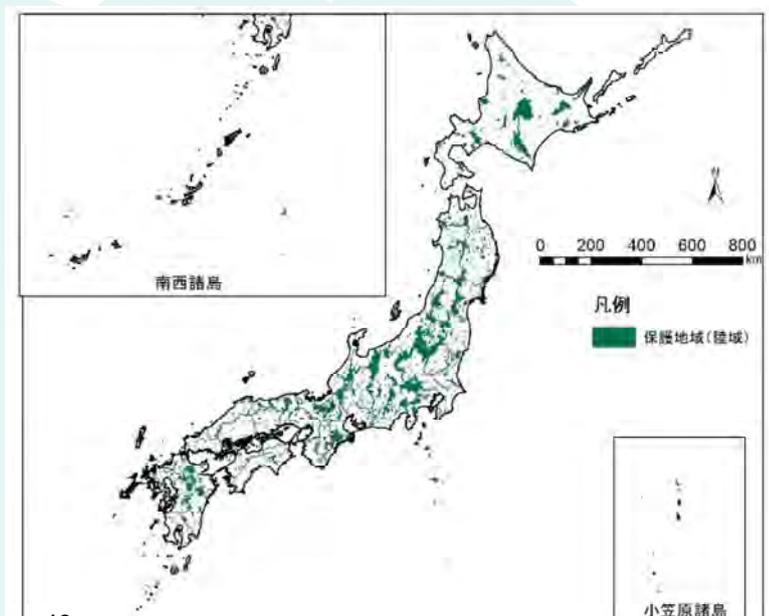
5

日本ではどのぐらいの面積が保全されているの？

陸域20.5%と海域13.3%が保護地域です

2020年までの愛知目標は達成

- ①「愛知目標」では2020年までに陸域17%、海域10%が目標。
- ②日本では、陸域は20.3%で既に愛知目標を達成。その後、奄美や沖縄の国立公園の指定等により**20.5%**。
- ③海域は8.3%だったが、2020年に「沖合海底自然環境保全地域」という制度をつくり、小笠原方面を新たに指定し、**13.3%**。



ちなみに、、、

国土 1%≒埼玉県

陸域30%達成まで埼玉県10個分

7

どうやって達成するの？

**保護地域に加えそれ以外の場所を
力を合わせ守ります。**

国立公園等の**保護地域**を拡張



地域の力を結集し、**OECM**で目標達成へ



「OECM」って何？

「保護地域以外で 生物多様性保全に資する地域」

- ① 「愛知目標」の中の陸域と海域を守る目標には、その達成手段として、「**保護地域以外で生物多様性保全に資する地域**」が示された。英語でOther Effective area-based Conservation Measures、略して**OECM**。
- ② 先住民族の管理している土地など**法令による規制ではなく慣習や生業によって守られている場所**を、地球の生態系を守るための場所としてきちんとカウントしていくことができる仕組み。いま国際的に注目され、「**名古屋のギフト**」と呼ばれることもある。

どんな場所が該当しそう？

- 生物多様性の価値を有し、
- 企業、団体・個人、自治体による様々な取組により、
- (本来目的に関わらず) 生物多様性の保全が図られている

区域

例えば、
企業の森、ナショナルトラスト、バードサンクチュアリ、ビオトープ、
自然観察の森、里地里山、森林施業地、水源の森、社寺林、
文化的・歴史的な価値を有する地域、企業敷地内の緑地、屋敷林、
緑道、**都市内の緑地、風致保全の樹林、都市内の公園**、
ゴルフ場、スキー場、
研究機関の森林、環境教育に活用されている森林、
防災・減災目的の森林、遊水池、河川敷、
水源涵養や炭素固定・吸収目的の森林、
建物の屋上、
試験・訓練のための草原・・・

などが考えられる



OECDがインセンティブになる制度も検討中



補助金の活用



- 保全活動、モニタリング調査、人員確保等に使える補助金や既存の仕組みを活用し、自然共生サイト（仮称）認定前後の取組を支援する。

【自然共生サイト(仮称)認定後の用途】

- ・ 効果の測定や継続申請を目的としたモニタリング調査。
- ・ 作業人員の確保、交通費、保全作業に必要な資機材等、資産とならないものに限る。

【自然共生サイト(仮称)認定前の用途】

- ・ 申請・認定に値するかどうかを明らかにする調査等への活用が想定される。

※既存事業の活用

- ・ 地域における生物多様性の保全再生に資する活動等(ソフト事業)に対し必要な経費の一部を交付する生物多様性保全推進支援事業(下表)の活用もあり得る。

対象事業	交付対象となる事業内容
重要生物多様性保護地域保全再生	国立公園、国定公園、自然環境保全地域、国指定鳥獣保護区、ラムサール条約湿地、世界自然遺産、ユネスコBR内における生息環境の保全再生等
広域連携生態系ネットワーク構築	生物多様性地域連携促進法又は自然再生推進法に基づく法定計画の作成、当該計画に基づく事業で生態系ネットワークの構築に係る広域の取組等
地域民間連携促進活動	生物多様性地域連携促進法に基づく地域連携保全活動支援センターの設置又は運営に係る体制の構築並びに同センターが実施する取組等
国内希少野生動植物種生息域外保全	国内希少野生動植物種を対象とした、種の保存に資する飼育・繁殖・野生復帰の取組等
国内希少野生動植物種保全	国内希少野生動植物種を対象とした生息環境改善等のほか、これに必要な分布状況調査・保全計画策定
里山未来拠点形成支援事業	重要里地里山、都道府県立自然公園、重要湿地、特定植物群落、国立・国定公園普通地域等の生物多様性保全上重要な地域における環境的課題と社会経済的課題を統合的に解決しようとする活動

◆ 他制度との連携等

- 自然共生サイト（仮称）認定が他制度において付加価値となる制度連携など
- 土地の所有や借用に係る費用負担の軽減（税制優遇等）、国・地方公共団体への許可申請等必要な各種手続きの簡略化等による負担軽減等に関する検討

◆ 専門家等の人材派遣

- 生物多様性の保全管理技術に乏しい実施主体への専門家派遣を行うための人材バンクや派遣制度、仲介するマッチングシステムの整備、既存の人材派遣制度の活用
- 専門家や派遣側にメリットが出るような仕組みを検討（企業等に所属し、かつて生態学や環境科学を専攻していた人材も活用）

◆ 寄附等の促進

- 寄附が促進されるような基金の設立など

◆ 認定マークの付与

- 自然共生サイト（仮称）認定や支援を表すマークによる他地域・他団体との差別化や価値向上など